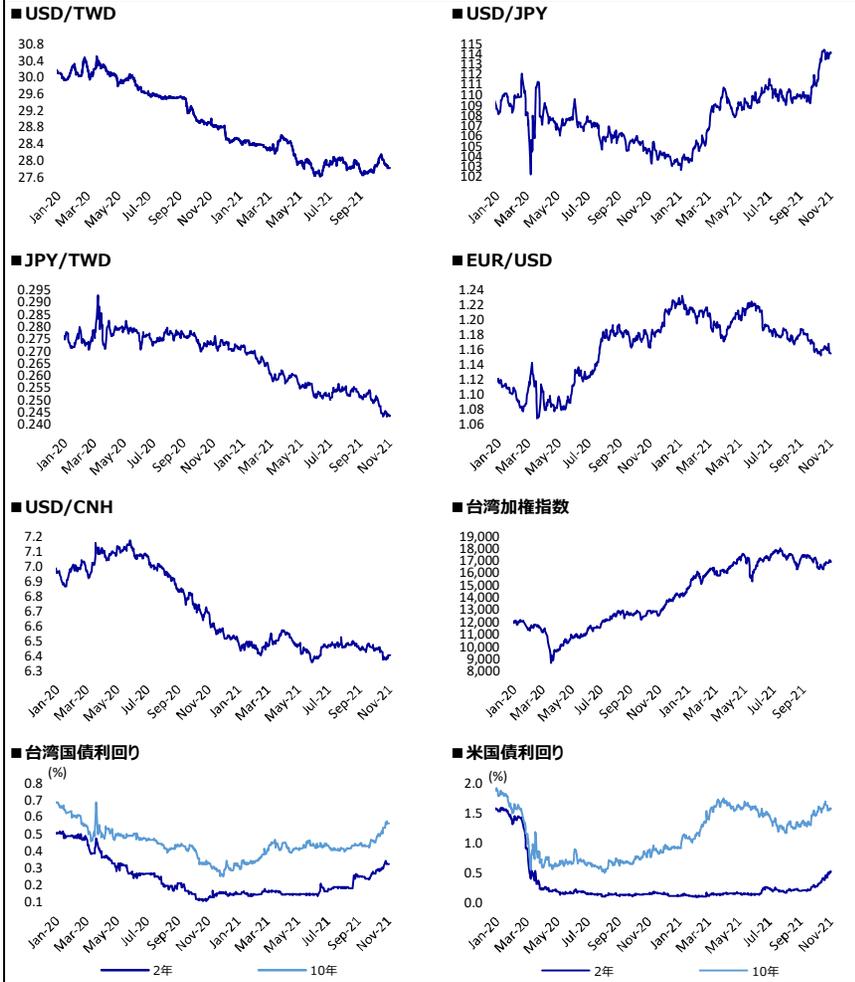


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは下落。週初10/25は27.940とギャップアップしてオープンしたものの、すぐに戻され、アジア通貨が強含む中、海外からの資金も流入し、27.85付近まで下落。10/26は月末の輸出企業のドル売りから27.81付近まで下落し、10/27も月末のドル売りが継続し、一時27.785まで下落。しかし、27.80割れの水準では輸入企業や投資家等からのドル買いが入り、27.81付近まで戻された。10/28は来週にFOMCを控え、月末ながら動意に乏しい展開となり、10/29も月末で輸出企業のドル売りが入ったもののレンジを抜けることはなく、最終的には先週比0.2%ドル安台湾ドル高の27.820で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は49.8億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初10/25は113.62でオープン後、実際のドル買いフローや早期利上げ期待の後退等で113円台半ばから後半のレンジでもみ合う展開に。10/26は日経平均が上昇する中、リスクオフの展開に113円台後半で推移。その後も発表された米経済指標が予想を上回り、ドル高の流れが継続。また、米企業決算では多くの企業が市場目標を上回る内容や上方修正が好感される中、米株が上昇したこともあり、ドル円は一時114.31まで上昇。10/27は月末の実需フローからドルが売られ113円台に戻し、さらに軟調な欧米株や、月末実需で中長期ゾーンの米国債が買われ米長期金利が低下するのを受けて、113円台半ばまで下落。10/28は、日銀の金融政策決定会合ではサプライズはなく、影響は限定的。また、ECB理事会も金融政策の維持を決定。ラガルドECB総裁は「高インフレ局面は予想よりも長く継続と認めるも、中期では目標を下回り、市場の利上げ予想はガイダンスと一致しない」とハト派なスタンスを示したが、市場の利上げ期待は後退せず、ユーロ高で反応。ドル売りの流れとなりドル円は一時113.26まで下落。10/29はFOMCを控え様子見ムードが続いたが、月末絡みのフローからドル円はじり高の展開となり、米金利が低下するも一時114.09まで上昇し、最終的に先週比0.5%ドル高円安の114.03で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：27.780-27.950
月初であり、台湾株、外国人投資家の動向に注目。今週はFOMCを控え、週前半は様子見ムードとなるものの、週後半は米金利の動向に左右されるであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：113.20-114.90
今週はFOMCを控えているが、量的緩和の縮小開始は織り込まれており、焦点は利上げ時期に移っている。物価上昇への懸念が消えない中、早期利上げ期待が高まっており、米国以外にも各国中銀が金融引き締めめにシフトしている中、日銀のみ緩和維持の方向であり、円が売られやすい展開を見込む。

今週の予定

11/1 (MON)	米10月ISM製造業景況指数
11/2 (TUE)	RBA政策金利発表
11/3 (WED)	米10月ADP雇用統計、米10月製造業受注、米10月ISM非製造業景況指数、FOMC
11/4 (THU)	BOE政策金利発表、米9月貿易収支
11/5 (FRI)	台湾10月CPI、米10月雇用統計

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。